

研究員 の眼

2021年の暦など 祝日と太陽・月の様子

保険研究部 主任研究員 安井 義浩
(03)3512-1833 yyasui@nli-research.co.jp

2021年版の理科年表が発行される季節になったので、暦の部分だけでも見てみよう。2021年の祝日は以下の通りとなっている。今度こそはということで、再び東京オリンピック関係の変更がある。

【国民の祝日】

祝日	2021年では		(参考) 祝日法の定め
元 日	1月1日(金)		1月1日
成 人 の 日	1月11日(月)		1月第2月曜日
建 国 記 念 の 日	2月11日(木)		政令で定める日
天 皇 誕 生 日	2月23日(火)		2月23日
春 分 の 日	3月20日(土)		春分日
昭 和 の 日	4月29日(木)		4月29日
憲 法 記 念 日	5月3日(月)		5月3日
み ど り の 日	5月4日(火)		5月4日
こ だ も の 日	5月5日(水)		5月5日
海 の 日	7月22日(木)	2021は特例(東京オリンピック開会式の前日)	7月第3月曜日(7/19)
ス ポ ー ツ の 日	7月23日(金)	2021は特例(同上 当日)	10月第2月曜日(10/11)
山 の 日	8月8日(日)	2021は特例(同上 閉会式当日)	8月11日
(休 日)	8月9日(月)		(振替休日)
敬 老 の 日	9月20日(月)		9月第3月曜日
秋 分 の 日	9月23日(木)		秋分日
文 化 の 日	11月3日(水)		11月3日
勤 労 感 謝 の 日	11月23日(火)		11月23日

次に、二十四節気、雑節は以下の通り。実際には時刻まで決まっているが省略

【二十四節気】

	2021年は	太陽黄経(度)	説明
小寒 (しょうかん)	1月5日	285	寒の入りで、寒気がましてくる
大寒 (だいかん)	1月20日	300	冷気が極まって、最も寒さがつる
立春 (りっしゅん)	2月3日	315	寒さも峠をこえ、春の気配が感じられる
雨水 (うすい)	2月18日	330	陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり、雪が雨に変わる
啓蟄 (けいちつ)	3月5日	345	冬ごもりしていた地中の虫がはい出てくる
春分 (しゅんぶん)	3月20日	0	太陽が真東から昇って真西に沈み、昼夜がほぼ等しくなる
清明 (せいめい)	4月4日	15	すべてのものが生き生きとして、清らかに見える
穀雨 (こくう)	4月20日	30	穀物をうるおす春雨が降る
立夏 (りっか)	5月5日	45	夏の気配が感じられる
小満 (しょうまん)	5月21日	60	すべてのものがしだいにのびて天地に満ち始める
芒種 (ぼうしゅ)	6月5日	75	稲や麦などの(芒のある)穀物を植える
夏至 (げし)	6月21日	90	昼の長さが最も長くなる
小暑 (しょうしょ)	7月7日	105	暑気に入り梅雨のあけるころ
大暑 (たいしょ)	7月22日	120	夏の暑さがもっとも極まるころ
立秋 (りっしゅう)	8月7日	135	秋の気配が感じられる
処暑 (しよしょ)	8月23日	150	暑さがおさまるころ
白露 (はくろ)	9月7日	165	しらつゆが草に宿る
秋分 (しゅうぶん)	9月23日	180	秋の彼岸の中日、昼夜がほぼ等しくなる
寒露 (かんろ)	10月8日	195	秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ
霜降 (そうこう)	10月23日	210	霜が降りるころ
立冬 (りっとう)	11月7日	225	冬の気配が感じられる
小雪 (しょうせつ)	11月22日	240	寒くなって雨が雪になる
大雪 (たいせつ)	12月7日	255	雪がいよいよ降りつもってくる
冬至 (とうじ)	12月22日	270	昼が一年中で一番短くなる

2021年の日付は理科年表2020より。説明は国立天文台HPより

【雑節】

	2021年は	太陽黄経(度)	説明
土用 (どよう)	1月17日	297	
節分 (せつぶん)	2月2日		立春の前日
彼岸 (ひがん)	3月17日		春分日の3日前
土用	4月17日	27	
八十八夜 (はちじゅうはちや)	5月1日		立春から88日目
入梅 (にゅうばい)	6月11日	80	
半夏生 (はんげしょう)	7月2日	100	
土用	7月19日	117	
二百十日 (にひゃくとうか)	8月31日		立春から210日目
彼岸	9月20日		秋分日の3日前
土用	10月20日	207	

理科年表2021より筆者作成、土用と彼岸は期間を表すので、その初日(入り)を記載

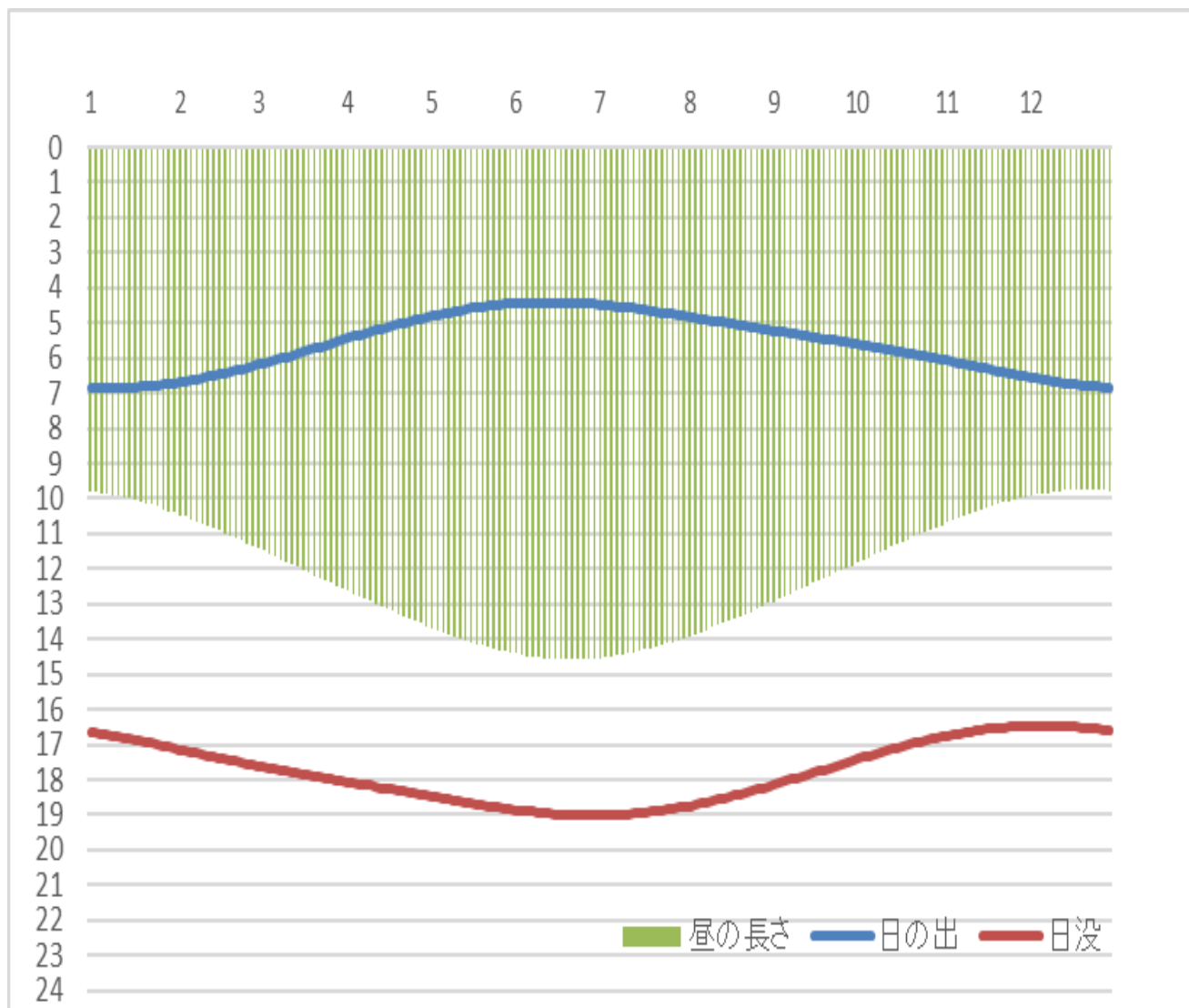
少し例年とかわったところと言えば、2021年の節分は2月2日である。このところずっと続いていた2月3日ではない。間違えないようにしよう。

ちなみに、2月3日でないのは1959年が2月4日だった時以来。特に2月2日になるのは、1897年（明治30年）2月2日以来、なんと124年ぶり、とのことである。

太陽と月の動きに関する情報

【東京における日の出、日の入り時刻と、昼の長さの変化】

（縦軸：時刻 横軸：月）



（天文年鑑 2021 のデータより、グラフは筆者作成）

12月は昼が9時間ほどしかないが、夏は昼が14時間以上もある。こうして改めて見るとかなり大きな差である。また春先に日が長くなっていく頃は、日の入りも遅くなるとしても、日の出の方がどんどん早くなり、逆に秋は日の入りが急に早くなる。「秋の日はつるべ落とし」などと言う。これは人の感じ方の問題だが、実際に日没時刻が日毎に急に早くなっていくことも、そう感じる一つの要素だとも言われる。

【月に関する情報 (2021年)】

	(日)					
	下弦	朔(新月)	上弦	望(満月)	下弦	(満月の呼び名)
1月	6	13	21	29	-	ウルフムーン
2月	5	12	20	27	-	スノームーン
3月	6	13	21	29	-	ワームムーン
4月	4	12	20	27	-	ピンクムーン
5月	4	12	20	26(皆既月食)	-	フラワームーン
6月	2	10 ※1	18	25	-	ストロベリームーン
7月	2	10	17	24	31	バックムーン
8月	-	8	16	22	30	スタジェムーン
9月	-	7	14	21(中秋の名月)	29	ハーベストムーン
10月	-	6	13	20	29	ハンターズムーン
11月	-	5	11	19(部分月食)	27	ビーバームーン
12月	-	4 ※2	11	19	27	コールドムーン

※1 金環日食 (日本ではみられない)

※2 皆既日食 (日本ではみられない)

(理科年表 2021 より筆者作成 (呼び名を除く))

2021年は満月が2回ある月(ブルームーン、去年の今頃はそう書いた)はない。7月に下弦が2回ある。月というくらいだから、ほぼひと月で一周するので、そういうことは珍しいのだろう。

最近では満月の名前が話題になることが多いと感じるので、アメリカの先住民の呼び名に端を発する名称を紹介しておいた。(一部諸説あるようだし、これは理科ではなく、文学とか民俗学の範疇の話だろうが。)

【日食と月食】

上の表にもある通り、2021年に日本で見られる日食は、残念ながら、ない。月食は5月と11月の2回見られることになっている。